横浜市立 南神大寺小学校　　令和8年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【みつめ　みがきあい　みらいをひらく　南神の子】
～自分や友達、地域を大切にし、主体的に学び、互いに高め合う　子どもを育成します～
【知】知識や経験をもとに考えたことを伝え合い、主体的に学ぶ力を育てます
【徳】自分も友達もみなかんのまちも大切にできる温かい心を育てます
【体】望ましい生活習慣を身につけ、運動に親しみ、心身共にたくましく生きる力を育てます
【公】すすんで社会とかかわり、社会の役に立とうと行動する力を育てます
【開】自分を見つめ、新しい価値観を受け入れながら、共に考え、よりよく生きていく力を育てます

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
主体的に未来を創る力	①9年間で育てる資質・能力を意識した授業づくりや評価を含めたカリキュラムづくりを行い、共有する。 ②自分も人も大切にし、共に高めあう心を育むために、自己肯定感や自己有用感を意識した児童・生徒の交流を目指す。 ③各教科等を9年間で学ぶ意義や育成を目指す資質・能力を明確化することで、「松本中ブロック小中一貫カリキュラム」としてまとめることを目指す。

中期取組目標

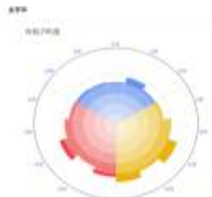
社会（まち・ひと）とつながり、多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、課題の解決に向けて行動できる、持続可能な社会形成を担う人材の育成を目指します。
〇子どもたちが、課題を見出し、解決に向けて、試行錯誤しながら活動を進められるようにします。
〇子どもたちが、多様な他者とのコミュニケーションを図り、活動の価値に気付けるようにします。
〇子どもたちが、ものごとを前向きに捉え、自分らしさを発揮できるような教育活動を展開します。
〇教職員は、子どもたちの自己有用感を高め、家庭や地域と連携した学校づくりを進めます。
〇教職員は、人権尊重の精神を基盤とする豊かな心の育成を進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
授業改善		①課題解決型の学習を進め、子どもたちは「何を」「どのように」学んだのかの振り返りを通して、成長を実感できるようにする。 ②単元の学習過程において、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に位置付け、各教科等の学習過程の充実を図る。 ③ICTを活用した教材（デジタル教科書、デジタル・AIドリル等）を活用しながら学習形態や方法などを工夫した分かりやすい授業づくりに取り組む。
担当	授業改善部	

学力向上に関わる本校の状況

（1）学力に関わる児童の実態
　生活意識調査、学習意識調査を比較すると、学年ごとにばらつきはあるものの、昨年度と概ね同じ状況、もしくは昨年度よりも若干低下はしているが、横浜市と比べると、おおむね平均値から平均値以上となっており、前向きな態度で学習していることが分かる。また、特に地域との関わりを大切にしている児童が多くいることが分かる。
　一方、学力調査においては、横浜市の平均値から低下しており、当該学年での基礎学力の確実な習得と、習得した知識を活用できるような学習活動の計画を立てていく必要がある。



（2）これまでの学校の取組状況
　南神大寺小学校の子どもたちに身に付けてほしい力について、学習状況調査の結果なども加味しながら、ピラミッドチャートを用いて、低・中・高学年ブロックに分かれて、長所や伸ばして欲しい所について話し合い、教職員で共有することができた。

今年度の目標

「根拠を明確にして自分の考えを表現し、主体的に取り組む子」
～確かな学力、生き方を育む～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	教師が各教科・単元で児童が身に付けるべき資質・能力をしっかりと分析・把握し、達成される活動や手立てを設定していく。また、パワーアップタイムなどの時間を利用し、AIドリルやデジタル教科書の活用もしていくことで基礎・基本の定着につなげていく。子どもたち自身も子どもたちが自分自身でも学習の成果を実感したり、自分が成長するためにはどうすればよいかを考えられるようにする。学習の成果を実感できるようにする。 【1年】校内の人との関わりを通して、学校生活への関心を高め、、自分の身近なことに積極的に関わろうとする態度や学習への取り組み方の基本的な姿勢を育てる。 【2年】短い時間での発表活動を多く行うことで、学習内容や発表することへのイメージをつかめるようにするとともに、友達の話に興味をもって聞くことができるようにする。 【3年】日々の学習の中で、文章のどの部分を基に考えたか問いかえすことで文章をしっかりと読むことを意識させたり、問われていることは何かを正確に読み取ったりすることができるようにする。 【4年】日々の学習の中で、文章のどの部分を基に考えたか問いかえすことで文章をしっかりと読むことを意識させたり、問われていることは何かを正確に読み取ったりすることができるようにする。社会科や理科でグラフの読み取りや活用の指導を授業の中で取り入れることで、算数科の統計分野の読み取りの力も高めていく。 【5年】基礎的な知識を身に付けて行くことを意識して学習を進めていく必要があると考えられるので、文章を読んだり、グラフ、図などを注意深く読み取ったりする力も身に付けていけるように意識させる。 【6年】文字化・図式化など情報を可視化する学習を多く取り入れることで、設問や事象から情報を捉える認知的な能力の底上げを図る。 【個別】一人ひとりの興味関心や実態に応じた教材や学習課題を設定し、発達段階に応じたコミュニケーション手段を活用する場面を設け、主体的に学ぶ意欲を高める。
下半期	【1年】幼稚園や保育園の友達との交流会などを設定するなどして、相手のことを想像して自分の伝えたいことを考えたり、友達と学習を楽しんで行うことができるようにする。 【2年】、自分の考えを明らかにし、友達と一緒に学習を楽しむことができる姿勢を育てる。 【3年】学習のめあてを意識しながら、友達の意見に興味をもって聞き、自分の考えを表現できる姿勢を育てる。 【4年】学習のめあてを意識しながら、友達の意見に興味をもって聞き、自分の考えを表現したり、互いの考えを伝え合ったりできる姿勢を育てる。 【5年】「個別最適な学び」と「協働的な学び」ができる場を設定し子ども自身が選択して学習に取り組むことができるようにする。根拠を明確にして自分の考えを表現し、主体的に取り組む姿勢を育てる。 【6年】「個別最適な学び」と「協働的な学び」ができる場を設定し子ども自身が選択していくことで自分が身に付けるべき資質能力を考えながら、学習に取り組むことができるようにする。根拠を明確にして自分の考えを表現し、主体的に取り組む姿勢を育てる。 【個別】体験的な活動やグループ学習を多く取り入れることで、友達と関わりながら学習する楽しさを味わうことができるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
人権教育		①様々な人との関わり（友達・異学年・地域）を重視した活動を通して、自他のよさや違いを認め合い、互いの人権や生命を尊重する子の育成を目指していく。 ②日々の授業や人権週間等における子ども自身が人権課題について考える学びや たてわり（異学年）活動の充実をはかる。 ③児童の基本的人権に十分配慮し、一人一人を大切にした人権教育を推進するとともに、「子どもの権利条約」の理念と趣旨を踏まえ、子どもの権利の観点から教育活動を見直すなど、人権教育の充実に努める。
担当	児童指導部	

豊かな心に関わる本校の状況

本校は小規模校のため、異学年であっても互いを知っていることが多く、クラブ活動等あたたかい人間関係の中で過ごすことができている。休み時間や放課後には、学年関係なく共に遊ぶ姿も多く見られる。
　一方で、自分の思いが伝わらなくてきつい言い方をしてしまったり、自分を優先して相手を傷つけてしまったりすることも多い。また、横浜市学習意識調査、生活意識調査において、「自分によいところはありますか」「自分のことが好きですか」等の自尊感情に関係する項目は市平均に対して低い傾向が見られる。「友達のしたことや言ったことに対して、なぜそれをしたり行ったりするのか理解できるほうだと思いますか」では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を選んだ割合が市平均より低い学年も見られた。
　これらを受け、日々の教育活動の中で、人との関わりを大事にした取組を設定し、豊かな体験活動を経験する中で、自尊感情を育み、自分も相手も大切にできる子の育成を目指す。

今年度の目標

全教育活動において人権尊重の精神を基盤とした教育を行うことを通して、子どもの自尊感情を育て、自分も他の人も大切にする心を育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇授業づくり ・人権尊重の精神を基盤とする授業づくり（一人ひとりが「できた」「わかった」を実感できる授業づくり） ・他者の思いを想像する力の育成のために、ペア学習・グループ学習等を意図的に設定する。 ・SOSの出し方に関する教育を行うために、日々の生活での声掛け・授業の実施 ・学級、学年、学校での居場所・役割づくり（係活動、実行委員、委員会活動など） ・確かな人権感覚・意識（挨拶、時間を守る、移動の仕方の他者意識等）の育成のために、挨拶運動の実施、視覚的手掛かりの活用。 ・思いや考えを伝えられるように、子どもの社会的スキル横浜プログラムの年2回以上の実施 〇職員研修 ・教職員の人権感覚・意識の向上のために、Y－Pアセスメントの支援検討や職員研修の実施。 ・子どもの背景を基とした児童理解のために、職員会議、児童指導部会、ケース会議での情報の共有、全職員の実施。 〇他者との関わり ・地域人材や外部機関との連携
下半期	〇授業づくり ・人権尊重の精神を基盤とする授業づくり（一人ひとりが「できた」「わかった」を実感できる授業づくり） ・他者の思いを想像する力の育成のために、ペア学習・グループ学習等を意図的に設定する。 ・SOSの出し方に関する教育を行うために、日々の生活での声掛け・授業の実施 ・学級、学年、学校での居場所・役割づくり（係活動、実行委員、委員会活動など） ・確かな人権感覚・意識（挨拶、時間を守る、移動の仕方の他者意識等）の育成のために、挨拶運動の実施、視覚的手掛かりの活用。 ・思いや考えを伝えられるように、子どもの社会的スキル横浜プログラムの年2回以上の実施 ・子どもの社会的スキル横浜プログラムの実施を受け、子どもの社会的スキルの育成を意識した授業づくり 〇職員研修 ・教職員の人権感覚・意識の向上のために、Y－Pアセスメントの支援検討や職員研修の実施。 ・子どもの背景を基とした児童理解のために、職員会議、児童指導部会、ケース会議での情報の共有、全職員の実施。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
安全教育		①安全に関する様々な課題に関心をもち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり、安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けられるようにする。 ②生活上の問題を見付け、その解決のために話し合い、合意形成したことを協働して実践し、健全な生活や社会づくりの実践力を高められるようにする。
担当	体育科・特別活動	

健やかな体に関わる本校の状況

（1）健やかな体に関わる本校の状況
〇令和7年度の横浜市学力学習状況調査の生活意識調査では、13「学校は安心できる場所だと思いますか。」という問いに対し、多くの学年が横浜市の平均を上回る結果となっている。
〇11「体をうごかすこと（うんどうすること）はすきですか。」に対して「好き」「どちらかといえば、好き」は、市を上回る学年もあったが、それを下回る学年もある。下回っている学年においては、「きらい」と答えている児童の割合が市の平均よりも多い結果となっている。
〇さらに47「自分の考えをもって、クラスの友だちと話し合っていると思いますか」に対しては、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答している児童の合計の割合が市の平均を上回っているが、「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合が多かった。

（2）これまでの学校の取組状況
〇体育科では、運動における危険性や事故の可能性を事前に指導をして、活動に取り組んできた。
〇学校保健委員会として、1年間「手洗い」をテーマに、各学級で目標を定め、子どもたちが健康、安全に過ごすことができるように取り組んだ。またその中で、各学級で児童が自分たちの課題、成果を話し合い、全校へ発表する取り組みも行ってきた。

今年度の目標

様々な教科を通して、児童自らが健康、安全に生活することができるような態度を身に付ける。また生活上の問題に対して、自分の考えをもち、話し合いを通して、よりよい生活や社会づくりを行おうとする力を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇体育の授業を通して、「運動の楽しさ」や「課題解決の楽しさ」を知る。 ・体育の中で「できた」を実感できる活動を通して、運動する楽しさを味わい、健康に過ごそうとする意識をもつことができるようにする。 ・児童自らが設定した課題に対し、その解決に向けた練習方法を提示したり、一緒に考えることで、児童が進んで課題解決することができるように授業づくりを行う。 〇保健の学習を通して健康に過ごすことについて知る。 ・健康な生活について、自身の課題を見付け、その解決に向けて考えられるように指導する。 ・けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を知る。 〇学校保健委員会の取組 ・今年度は自らの生活上での課題を見付け、学級で話し合い、その解決に向けて、目標を立てて、活動を行う。
下半期	〇運動する習慣を身に付け、自分の運動習慣に対する理解を深める。 ・体育科の学習だけでなく、体育委員会や集会委員会での活動を通して、体を動かす機会を設定し、児童が進んで運動する機会を楽しむことができるようにする。 ・体力テストや横浜市学力学習状況調査の生活意識調査の自分の結果を振り返り、自分の運動習慣について知る時間を設ける。 〇学校保健委員会の取組 ・年間を通して活動の成果を学級で話し合い、その成果を全校に向けて発表する。